

●はじめに

私たちは 2017 年 2 月 20 日から 3 月 29 日までの 38 日間の間、福島県立医科大学の国際交流事業の一環で中国の湖北省にある武漢大学の医学部に短期留学をさせていただきました。これから武漢大学への留学を考えている方々の参考になりましたら幸いです。

本レポートでは、私が実際に現地で何を学び、感じたのかについて簡潔にまとめてあります。読みながらイメージが得られるように適宜写真も盛り込んでありますので、是非そちらもご覧ください。

●現地での生活について

私たちは滞在期間中、武漢大学の医学部キャンパス内にある寮に宿泊していました。寮は学生食堂のすぐそばに位置していました。写真手前の学生第一食堂は私たちもしばしば利用していました。



奥の迎賓楼という白い建物が私たちの寮でした。



到着した時に迎賓楼の玄関前で撮った写真です。天気が悪く飛行機が 5 時間遅れてしまったので、寮に着いたのは現地時間午前 3 時過ぎでした。玄関には既に鍵がかかってしまっていました

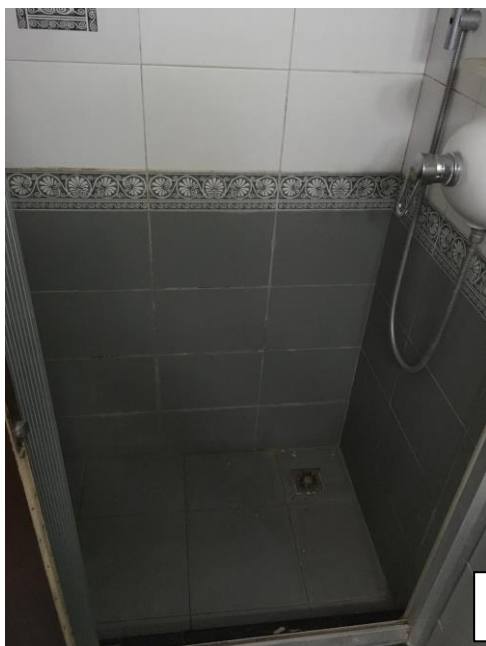
部屋は4人で2部屋を使うように言われました。現地の学生に、中国の寮は汚いから覚悟の方が良いと脅かれていましたが、思っていたよりはきれいでした。



部屋の中はこのようになっています。

しかし設備には欠陥が多く、例えば1部屋に1台洗濯機があるのですが、私の部屋の洗濯機はなんと配水管がなく、使用すると洗濯機の後ろから水が噴き出して辺り一面水浸しになってしまうといった様子でした。

中国で生活していく上で、水道や電気のトラブルは避けられません。私たちの部屋のシャワーの排水口は1週間に1度詰まって流れなくなってしまいましたし、部屋のWi-fiも上り下り共に10kbpsを下回るが多かったです。他にも水が全く出なくなったり、キャンパス全体が完全に停電してしまったり、様々なことが起こります。メインキャンパスの寮に住む日本人の学生の方々も、シャワーのお湯が出なくなったりするのはよくあることだとおっしゃっていました。こうしたトラブルに遭遇する機会は大変多いですから、中国に留学に行かれる皆さんにはこうした際にトラブルの内容を管理者にきちんと説明して、問題を解決してもらうように促す能力が求められると思います。



シャワーはこのような感じでした。

中国の人々は、日本の人々と同様に英語が分からない人の方が多いと思います。私たちも実際に現地で生活してみて、講座の先生方や医学部の学生とは英語でコミュニケーションを取っていましたが、観光に行った際や飲食店でご飯を食べる際などは英語が全く通じない場面にしばしば遭遇しました。しかし中国語が話せなくても、メモ帳に日本語をそのまま漢字で書いて見せたり、スマートフォンでメニューの写真を撮って指差したりすることによって自分の意思を伝えることができます。例えば、中国では買い物をした後にビニール袋が貰えないことが多いです。私たちもパン屋さんで買い物をした後にたくさんのパンをそのまま渡され困惑しましたが、メモ帳に「袋」と書いて見せたところきちんと袋に入れてもらうことが出来ました。同じく漢字が使われる言語ですから、日本人と中国人はこのような方法によってコミュニケーションを取ることができるのだということを実感しました。

#### ●現地での学習について

私は留学期間中、医学部の生理学講座にお世話になっていました。教授の Peng 先生はとても英語が堪能な方で、私を講座に温かく迎え入れてくれました。講座にはたくさんの大学院生も所属していて、彼らもまた皆英語が上手でした。コミュニケーションは基本的にすべて英語で行っていましたが、留学中に勉強した中国語を披露すると喜んで聞いてくれました。今回の留学はトータルでおよそ 5 週間と、研究をするには短い期間だったため、私は生理学講座では特に研究を行わず、外国人クラスの生理学の講義を受講していました。しかしながらすべての授業に出席しなければならないわけではなく、滞在中の学習に関しては好

きにして良いと言われていたため、他にも4年生の救急の実習や1年生の解剖学の実習に参加させていただきました。



生理学講座の Peng 教授と



医学部1号館の前で  
大学院生の Yang さんと



医学部4年生の救急の実習に参加した時の様子

#### ● 武漢大学中南医院の見学

Peng 教授のご厚意で、武漢大学医学部の附属病院の一つである中南医院を見学させていただきました。中南医院は非常に規模が大きい病院だったので、毎日多くの患者さんで混み

合っていました。病床数は 3300 もあるそうです。6 台しかないエレベーターが常にフル稼働しているため、エレベーターに乗ろうとしてもなかなか乗ることができず、いつも 10 フロア以上の階段を歩いて昇り降りしていました。

私たちが見学させて頂いたのは神経内科でした。病棟を先生と一緒に見て回りながらそれぞれの患者さんの疾患について説明をして下さりました。時折、この疾患が生じやすいのはどの血管？などと聞いて下さったりもしたので、見学前にある程度の知識を入れてから臨むと有意義な時間を過ごせると思います。神経内科では回診の他に DSA の手技も見学させていただきました。



中南医院の外観の一部。数枚の写真では納まりきれないくらいたくさんビルがありました。

#### ● 武汉大学人民医院の見学

武汉大学のもう一つの附属病院である人民医院も見学させていただきました。こちらも中南医院に負けにくいくらい大きな病院でした。病院は 8 号館まであり、今現在もなお新しい病棟が建設されていました。日本では喫煙に対する規制が厳しいですが、中国の病院では患者さんが病院内の廊下や階段などいたるところでタバコを吸っていました。医師や看護師も自分のデスクなどではタバコを吸っていて、病院内の床にはしばしばタバコをもみ消した跡が残っていました。



朝の人民医院 2 号館の入り口の様子。



人民病院 2 号館の外観

私たちは人民医院で泌尿器科と整形外科を見学させていただきました。どちらの科の先生方も私たち日本人学生に好意をもって接して下さい、人民医院のことや保険制度のことまで非常に熱心に説明してくださいました。

#### ●学生との交流

武漢大学に滞在している間、現地の学生にはたくさんお世話になりました。空港から大学まで車で送迎してくれたり、学生登録の手続きを一緒にやってくれたり、中国の文化を紹介してくれたり、観光地に連れて行ってってくれたり、おいしいレストランに連れて行ってってくれたり、感謝してもし尽せません。



医学部の1年生たちと大変仲良くなり、一緒に武漢市内の宝通寺に行った時の写真。最も気に入っている写真の一つです。

僕がお世話になった生理学講座では、僕のウェルカムパーティを開いてくださいました。



生理学講座の大学院生たちと、新疆ウイグル自治区の料理を食べながら。彼らは日本のアニメやドラマに詳しく、その話題でひとしきり話しました。

ホスピスケアに関心のある学生が集まるサークルのミーティングに参加し、福島医大の様々な部活やサークルの紹介をしたり、日本の文化や医学教育、医師の待遇、医療体制や保険制度などについてディスカッションしました。非常に楽しい時間を過ごすことができました。



ミーティングで仲良くなったみんなと

このほかにもメインキャンパスに留学している日本人学生とごはんを食べに行ったり、外国人クラスの学生とショッピングに行ったり、様々な国の様々な人たちと出会えました。

#### ●英語について

現地での生活を通じて、私はたくさんの刺激を受けて日本に帰って参りました。英語を話すのが得意ではないのは日本人も中国人も同じです。日本語が全く使えない環境に身を置くのは怖いと思いますが、そんな中でも何とかして自分の意思を伝えるためには、自信をもって堂々と英語を使うしかありません。

相手の話している英語が聞き取れなかった、ということは普段英語を使わない私たちにとってしばしば経験することですが、例えばそうした場合に必ずしも自分のリスニング能力だけに責任があるとは限らないと思います。相手が緊張していて話すスピードが速くなりすぎてしまったかもしれませんし、相手が平易な語彙を選択しなかったために理解が難しくなったかもしれません。相手がネイティブの人だった場合でも、相手がこちらの英語の理解力・リスニング能力に合わせてゆっくり話したり、必要ならば筆談なども交えて説明し



てくれれば済む話です。自分が英語を聞き取れなかったことに焦って、どうしようと考えながら沈黙を作ってしまうのは一番良くないことだと思います。そうした際には、会話をつなぐ目的も兼ねて「今なんとおっしゃったのですか」「あなたの言っていることが理解できませんでした」「もう少しゆっくり話していただけますか」「別の言葉で言い換えてくれませんか」「紙に書いて説明していただけますか」などと勇気を出して言うべきです。周りの友人を見ているとなかなか実践している人は少ないのですが、これは我々が英語を上達させるための近道であると私は考えています。相手の言っていることを理解しようと努めている姿勢を見せることで、相手もこちらに自分の意思を伝えようと熱心になってくれますし、その中で自然とコミュニケーションが生まれます。「ネイティブの人ってこういう時にこう言うのか」「日本人はこういう言い方をよく使うけど、中国人はこの単語を使った文をよく使うな」など、新しい発見も多くて面白いです。

英語で実際に生活してみて感じたことは、発音の勉強が非常に大切だということです。1年生の時にマーティン先生の英語のクラスを受けた時から、英語をきちんとかつこよく話せるようになりたいと思い、ずっと発音や抑揚の付け方にこだわってきました。そのおかげで、現地で自分の話した英語を聞き間違えられることは殆どありませんでしたし、武漢大学の先生方から「アメリカかどこかに留学していましたか？」などと言われ発音や話し方について褒めてもらえることが多かったです。実際に **b** と **v** の違い、**f** の発音、**l** と **r** と日本語のラ行との違いなど、きちんと区別しないことで相手の誤解を招いたり、粗雑な印象を与えてしまうことは少なくないと思います。英語を正しく発音できる友達や先生に聞いてもらって、きちんと自分の発音や抑揚にこだわるべきです。将来英語でプレゼンテーションをした際などに、相手に与える印象は全く変わってくると思います。

#### ●おわりに

最後になりますが、私たちの留学に携わって下さったすべての方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。今回私たちが得たものを少しでも還元していければと思っております。